

《運営方針》

公益社団法人日本 WHO 協会は、国際連合の専門機関である世界保健機関（WHO）の理念に賛同し、WHO との密接な連携のもとで、国内外で健康増進活動を行っている。これまで、WHO 西太平洋地域事務所（WPRO）や健康開発総合研究センター（WHO 神戸センター）をはじめ、多くの WHO 関係者との連携のもとで活動を行ってきた。

最も重要な活動は、WHO とのネットワークと関西発のグローバルヘルスの拠点という地政学的な強みを生かし、WHO ファクトシートの翻訳を行い、WHO の最新ニュースを日本語で発信し、WHO に関する日本語情報のワンストップ・サービスをめざすことである。

続いて、行政・大学・企業をつなぐ多様なネットワークを強化し、WHO やグローバルヘルスに関連する病院や大学や研究所、民間企業、NGO/NPO をはじめ、WHO 協力センターとの協働を重視する。また、従来からの WHO インターン支援に加えて、機関誌『目で見ると WHO』や『グローバルヘルスの集い』など、若い世代を巻き込んだ活動をさらに魅力的なものにしていく。

昨年度は、大阪府の医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会という4団体の会長に理事として参画いただき、専門的な活動が一気に広がった。また、年4回発行される機関誌『目で見ると WHO』の編集委員、隔月に開催される『グローバルヘルスの集い』など、若い世代の方々に積極的に参加いただき、楽しいなかにも有意義な活動が活性化した。

本年度は、ホームページの充実、機関誌『目で見ると WHO』や『関西グローバルヘルスの集い（KGH）』の活動のより活性化を行い、公益性に基づいた収益事業の展開、会員・賛助会員に還元できるサービス、市民にわかりやすい活動の可視化などを通じて、会員の増加や安定した組織運営をめざしたい。また、さまざまなプロジェクトを通じて、海外に羽ばたこうとしているさまざまな世代の自主的な活動を積極的にサポートし、世界の人々の健康を守るために地球市民の一員として、WHO をはじめとする国際機関、国、地方自治体、企業、NPO/NGO などと協働しつつ、だれひとり取り残されない「持続可能な開発目標」（SDGs）の目標達成をめざして活動していく。

《重点課題》

（1）日本 WHO 協会のホームページを充実することにより、WHO ファクトシートの翻訳の充実、WHO に関する日本語情報のワンストップ・サービスを提供する。

（2）機関誌『目で見ると WHO』の充実、セミナーやシンポジウムなどを通じて、WHO に関連する医療機関、大学、民間企業、NGO/NPO などとのネットワークを強化する。

（3）『関西グローバルヘルスの集い（KGH）』の活動と WHO インターン支援を継続し、グローバルヘルスをめざす人材の持続可能な育成を推進する。

（4）魅力的な活動などを継続的に提供することにより、会員の増加を目指す。

《事業別計画》

WHO をはじめ公衆衛生に関する諸情報について、フォーラム、機関誌やウェブサイト等を通じ

て多くの人々に認識して頂くため、次の事業を行う（分類は定款第4条事業区分による）。

1. WHO 啓発事業

（WHO 憲章精神の普及及び健康に関するフォーラム等の開催並びに機関誌広報等の啓発事業）

① ホームページの拡充

ウェブサイト及びメールマガジンにおいて、WHO に関する最新情報、ファクトシートの日本語訳など健康に関連する啓発知識や協会活動の情報を逐次発信する。

また、ユーザビリティの向上を図るため、コンテンツおよびデザインの見直し等、ホームページの全面的な刷新を行う。

② フォーラムの開催

WHO の施策動向や社会的ニーズに対応したテーマを選定し健康関連パブリックオピニオンの醸成や健康意識高揚に寄与するセミナーを実施する。本年度は、WHO 神戸センター、大阪府医師会及び大阪府歯科医師会との共催フォーラムを実施する。

③ 機関誌の発行

編集委員会活動を推進し、「目で見ると WHO」誌を年4回発行する。

④ 情報提供サービス

ワンワールドフェスティバルへの出展等により、WHO及び当協会の活動を広く周知すると共に、各種の相談対応を行う

2. 研究・提言事業

（健康に関する調査研究の受託・委託及び助成並びに研究成果に基づく提言等の研究事業）

① 本協会の目的に適合し公益性を持った研究についての受託、斡旋、委託を進め、選考委員会による選定を得たものについて助成を行う

3. 連携・協力事業

（国内外で健康に関する社会貢献活動を行う企業、団体並びに個人との連絡・調整・協力等の連携事業）

① 関西感染症フォーラム等啓発事業として共同参画できる事業や当協会事業目的と整合する他団体事業について共催、後援を行う

② 健康に関する社会貢献活動を行う企業、団体、個人との連携を図り、本協会ルートでの紹介 広報等の協力を行う

③ 関連団体などとの連携を深め、補助金・助成金の獲得を行う。

4. 支援・募金事業

（WHO の事業目的達成に寄与するための募金活動及び募金収益の拠出並びに活動協力等の支援事業）

① エイズ撲滅基金への募金活動をフォーラム等の機会を活用して継続実施し、その収益を拠出する

② WHO のニーズに応じた協力支援や募金活動を行う。

5. 人材開発事業

（WHO への人的貢献の拡大や国際保健衛生の向上につながる人材育成事業）。

① 若者の国際保健衛生関連分野への意欲喚起のため、関西グローバルヘルスの集いを年6回開催すると共に、jaih-s（日本国際保健医療学会学生部会）との共催フォーラムを行う。

② WHO インターンシップ対象者に対する支援を行う。

6. その他事業

（その他本協会の目的達成に必要な事業）

① WHO,WPRO,及び WKC との交流を進める